

# 第1回 資質能力向上研修会(1日目)

令和6年8月25日(日)に、元指導主事 瀬戸市立にしじの丘小学校 栄養教諭 杉野由起子先生を講師に、「教科と給食の時間に行う食に関する指導について」の演題で研修会を行いました。83名の会員が参加し、演習を交えながら、教科等における食に関する指導と給食の時間における食に関する指導について学ぶ有意義な研修会となりました。

## 1 食に関する指導のねらいを捉える

教科の單元にはねらいがあり、授業はそのねらいを達成する必要がある。その中で食に関する指導のねらいとしてどのようなものが考えられるのか、栄養教諭は専門的な立場から読み取り、担任へ伝えていくことが大切であるをご指導いただきました。また、教科の中で食に関する指導が行えるのは、教科のねらいを達成し、食に関する指導のねらいが設定できる單元であり、その際の資質・能力は教科のねらいと同じになることを学びました。私たちは教育課程や教科書をよく読み、教科の中で食に関する指導を行うことができるかを正しく判断し、食に関する指導の全体計画②を作成することが大切であるをご教示いただきました。



【杉野由起子先生】

## 2 給食の時間における食に関する指導とは

給食の時間における食に関する指導は、教育効果を高めたり、深めたりする内容でなければならないをご指導いただきました。そのためには、給食の時間における食に関する指導と教科等における食に関する指導の違いを理解し、給食指導、献立を教材とした指導、教科等と連携した指導のいずれかと結びつけた指導をすることが必要であると学びました。最後に、「食」の教育課程を編成し、「食」の学びを描くのは栄養教諭であるをご教示いただきました。



【研修会の様子】

### —参加者の声—

- 今までには指導したい内容が先行してしまい、その單元について深く教材研究ができていなかったと実感しました。教科書を読み込んで、小単元のねらいに沿った食に関する指導のねらいや資質・能力となるように、順を追って設定したいと思いました。また、研修で考えた小單元以外の單元もどのような食に関する指導のねらいが設定できるのか考えたいです。
- 演習を進めると、今まで食に関する指導のねらいを明確にしないまま、教科等と関わろうとしていたことがわかりました。今後 T2 等で授業に入る時や、入らない時でも担任の先生にお伝えすることができるよう、今回の演習で使った様式を用いながら、各教科の食に関する指導のねらいをよく考えていきたいです。
- 今まで教科と関連させているつもりだった授業や給食の時間の食に関する指導について、きちんと教科のねらいを理解し、どのタイミングで食に関する指導を組み込むとよいのか見直そうと思います。また、担任に食との関わりをわかりやすく伝えることを心がけ、食に関する指導は栄養教諭だけでなく、それぞれの職員が学校全体で行うという意識を高めていけるようにしたいです。

# 第1回 資質能力向上研修会(2日目)

令和6年10月27日(日)に、元指導主事 瀬戸市立にじの丘小学校 栄養教諭 杉野由起子先生を講師に、「教科と給食の時間に行う食に関する指導について」2日目の研修会を行いました。72名の会員が参加し、演習や協議を交えながら、教科等における食に関する指導と給食の時間における食に関する指導について学ぶ有意義な研修会となりました。

## 1 教科等における食に関する指導のねらいを捉える

教科等のねらいを達成すれば、おのずと食に関する指導のねらいを達成できる単元において、そこからずれない時に、食に関する指導を授業内で設定できること。また、教科の中に食に関する指導のねらいがあることを栄養教諭は理解して整理しておくことが大切であること指導いただきました。

演習で、教科のねらいや食に関する指導のねらい、その際の資質・能力を1つ1つ確認していくことで、食に関する指導が設定できる単元を精査することができました。教科のねらいとずれてしまう場合には、給食の時間における食に関する指導で教科と関連させた内容を取り扱うこともできるとご教示いただきました。



【杉野由起子先生】

## 2 給食の時間における食に関する指導について

給食の時間における食に関する指導の教育効果を高めるために、「給食指導」「献立を教材とした指導」「教科等と連携した指導」の違いを明確に理解し、指導することが必要であると学びました。また、授業の進み具合などを把握して、タイミングよく指導したり、担任に資料提供したりすることで指導効果が高まることが分かりました。



【研修会の様子】

### —参加者の声—

- 教科等における食に関する指導では、教科のねらいと食に関する指導のねらいはずれてはならないことが再確認できました。しかし、ねらいを大きく捉えていたり、教科と食に関する指導の資質・能力の相違に気が付いたりしたため、そうならないように最初に戻り考え直していくことができました。今後は、今回の演習で使用した表をもとに、教科や食に関する指導のねらい、資質・能力を確認し、教科担任等と連携しながら、指導内容がずれないように食に関する指導の場を設定していきたいです。
- 教科等で食に関する指導を行う場合、教科等の単元のねらいと食に関する指導のねらいがずれてはいけない事が改めて分かりました。実際に教育課程や教科書を見ながら考える事で、今までの授業への関わり方がよくなったのか振り返る事ができました。また、給食の時間とどのように関連させていくかじっくり考える事ができました。指導効果をより高めるために、給食の時間を活用して、教科の学習内容の学び直しや日々の献立を生かした食に関する指導を考えていきたいです。